

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	研究科の専攻の課程変更								
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジン キョウトコウゲイセンイダイガク 国立大学法人 京都工芸繊維大学								
フリガナ大学の名称	キョウトコウゲイセンイダイガクダイガクイン 京都工芸繊維大学大学院 (Kyoto Institute of Technology Graduate School)								
大学本部の位置	京都府京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地								
大学の目的	<p>本学大学院の役割は、科学技術の進展に伴って、あらゆる研究領域での高度化、多様化、複雑化が進む中、人や環境と調和する21世紀型科学技術を探求することを基礎としつつ、先進的な研究を通して、国際的に通用しうる複眼的思考力を有する高度な技術者・研究開発者を養成し社会に送り出すところにあり、とりわけ、テクノロジーとアートを包含する工芸学、および広くマテリアルサイエンスへと展開した繊維学にかかわる永年の伝統と豊富な蓄積を、新時代に向けて展開し、新しい科学技術社会に貢献することを使命としている。</p>								
新設学部等の目的	<p>今世紀の重要な課題である循環型社会形成に寄与するため、本学が世界的レベルにあるバイオベースマテリアル技術を基盤とした教育研究を展開し、実用的な再生可能材料の開発を通じて新しい材料科学を開拓する。</p> <p>このために、これからの世界で主力となるバイオベースプロダクトに対する深い知識をもつだけでなく、学修・研究成果を国際的社会において活かせるための方向性を理解した人材を育成し、バイオベースマテリアルの開発において世界をリードする。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	14条特例の実施
	工芸科学研究科 [Graduate School of Science and Technology]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	京都府京都市左京区 松ヶ崎橋上町1番地	
	バイオベースマテリアル学専攻[Doctoral Program of Biobased Materials Science]	3	6	—	18	博士（工学）	平成24年4月 第1年次		
計		6	—	18					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	工芸科学研究科 バイオベースマテリアル学専攻	6科目	4科目	0科目	10科目	16単位			
教員組	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設分	工芸科学研究科 バイオベースマテリアル学専攻 博士後期課程（博士課程）	人	人	人	人	人	人	人
			5	5	0	2	12	0	0
		計	(5)	(5)	(0)	(2)	(12)	(0)	(0)
	既組	工芸科学研究科 生命物質科学専攻 博士後期課程（博士課程）	50	39	0	0	89	0	0
			(50)	(39)	(0)	(0)	(89)	(0)	(0)
		工芸科学研究科 設計工学専攻 博士後期課程（博士課程）	42	34	0	0	76	0	0
		(42)	(34)	(0)	(0)	(76)	(0)	(0)	
工芸科学研究科 造形科学専攻 博士後期課程（博士課程）		21	12	0	0	33	0	0	
	(21)	(12)	(0)	(0)	(33)	(0)	(0)		
工芸科学研究科 応用生物学専攻 博士前期課程（修士課程）	18	14	0	6	38	0	0		
	(18)	(14)	(0)	(6)	(38)	(0)	(0)		
工芸科学研究科 生体分子工学専攻 博士前期課程（修士課程）	8	9	0	4	21	0	1		
	(8)	(9)	(0)	(4)	(21)	(0)	(1)		
工芸科学研究科 高分子機能工学専攻 博士前期課程（修士課程）	11	9	0	4	24	0	1		
	(11)	(9)	(0)	(4)	(24)	(0)	(1)		

概 要	設 の 分	工芸科学研究科 物質工学専攻 博士前期課程（修士課程）	17 (17)	12 (12)	0 (0)	7 (7)	36 (36)	0 (0)	4 (4)
		工芸科学研究科 電子システム工学専攻 博士前期課程（修士課程）	13 (13)	10 (10)	0 (0)	6 (6)	29 (29)	0 (0)	0 (0)
		工芸科学研究科 情報工学専攻 博士前期課程（修士課程）	12 (12)	10 (10)	0 (0)	6 (6)	28 (28)	0 (0)	4 (4)
		工芸科学研究科 機械システム工学専攻 博士前期課程（修士課程）	17 (17)	15 (15)	0 (0)	6 (6)	38 (38)	0 (0)	0 (0)
		工芸科学研究科 デザイン経営工学専攻 博士前期課程（修士課程）	6 (6)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	13 (13)	2 (2)	16 (16)
		工芸科学研究科 造形工学専攻 博士前期課程（修士課程）	13 (13)	7 (7)	1 (1)	4 (4)	25 (25)	0 (0)	4 (4)
		工芸科学研究科 デザイン科学専攻 博士前期課程（修士課程）	5 (5)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	12 (12)	0 (0)	6 (6)
		工芸科学研究科 建築設計学専攻 博士前期課程（修士課程）	4 (4)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	10 (10)	0 (0)	3 (3)
		工芸科学研究科 先端ファイブ科学専攻 博士前期・後期課程（独立専攻）	5 (5)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	24 (24)
		工芸科学研究科 バイオベースマテリアル 学専攻博士前期課程（修士課程）（独立専攻）	5 (5)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	12 (12)	0 (0)	4 (4)
		計	126 (126)	102 (102)	1 (1)	52 (52)	281 (281)	2 (2)	63 (63)
合 計	126 (126)	102 (102)	1 (1)	52 (52)	281 (281)	2 (2)	63 (63)		
教員 以外 の職 員の 概要	職 種		専 任	兼 任	計				
	事 務 職 員		110 (110)	74 (74)	184 (184)				
	技 術 職 員		29 (29)	7 (7)	36 (36)				
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)	2 (2)	4 (4)				
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計			141 (141)	83 (83)	224 (224)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	1 1 8, 5 7 3 m ²	0 m ²	0 m ²	1 1 8, 5 7 3 m ²				
	運 動 場 用 地	1 8, 6 5 8 m ²	0 m ²	0 m ²	1 8, 6 5 8 m ²				
	小 計	1 3 7, 2 3 1 m ²	0 m ²	0 m ²	1 3 7, 2 3 1 m ²				
	そ の 他	7 2, 4 1 7 m ²	0 m ²	0 m ²	7 2, 4 1 7 m ²				
	合 計	2 0 9, 6 4 8 m ²	0 m ²	0 m ²	2 0 9, 6 4 8 m ²				
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	1 0 0, 5 9 0 m ² (1 0 0, 5 9 0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	1 0 0, 5 9 0 m ² (1 0 0, 5 9 0 m ²)					
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	4 1 室	3 6 室	2 3 7 室	4 室 (補助職員 5人)	2 室 (補助職員 1人)				
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数					
	工芸科学研究科 バイオベースマテリアル学専攻			1 2 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	工芸科学研究科 バイオベース マテリアル学専攻	392,116 [156,448] (383,335 [153,571])	8,995 [5,795] (8,762 [5,562])	3,200 [3,140] (3,200 [3,140])	1,980 (1,780)	1800 (1,500)	57 (57)		
	計	392,116 [156,448] (383,335 [153,571])	8,995 [5,795] (8,762 [5,562])	3,200 [3,140] (3,200 [3,140])	1,980 (1,780)	1800 (1,500)	57 (57)		
図 書 館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				
	4, 8 9 3 m ²		4 4 2		4 2 7, 0 0 0				
体 育 館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	1, 7 5 5 m ²		武道場、弓道場			テニスコート6面			

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による	
		教員1人当り研究費等	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円		-千円
		共同研究費等	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円		-千円
		図書購入費	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円		-千円
		設備購入費	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円		-千円
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		-								
既設大学等の状況	大学の名称	京都工芸繊維大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	工学部	年	人	年次人	人		倍			
	応用生物学課程	4	50		200	学士(農学)	1.06	平成18年度改組	京都府京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地	
	生体分子工学課程	4	50		200	学士(工学)	1.04	平成18年度改組		
	高分子機能工学課程	4	50		200	学士(工学)		平成18年度改組		
	物質工学課程	4	65		260	学士(工学)		平成18年度改組		
	電子システム工学課程	4	60		240	学士(工学)		1.06		平成18年度改組
	情報工学課程	4	60		240	学士(工学)	1.02	平成18年度改組		
	機械システム工学課程	4	85		340	学士(工学)	1.03	平成18年度改組		
	デザイン経営工学課程	4	40		160	学士(工学)	1.06	平成18年度改組		
	造形工学課程	4	125		500	学士(工学)	1.00	平成18年度改組		
	上記課程共通			45	90					
	先端科学技術課程	4	40	5	90	学士(工学)	1.02	平成18年度改組		
	工学科学研究科博士前期課程						1.11			
	応用生物学専攻	2	40		75	修士(農学)	1.09	平成18年度改組		
	生体分子工学専攻	2	35		70	修士(工学)	0.84	平成18年度改組		
	高分子機能工学専攻	2	35		70	修士(工学)	1.08	平成18年度改組		
	物質工学専攻	2	48		93	修士(工学)	1.15	平成18年度改組		
	電子システム工学専攻	2	40		70	修士(工学)	1.10	平成18年度改組		
	情報工学専攻	2	40		70	修士(工学)	1.26	平成18年度改組		
	機械システム工学専攻	2	55		95	修士(工学)	1.17	平成18年度改組		
	デザイン経営工学専攻	2	18		32	修士(工学)	1.14	平成18年度改組		
	造形工学専攻	2	25		50	修士(工学)	1.08	平成18年度改組		
デザイン科学専攻	2	17		31	修士(工学)	1.13	平成18年度改組			
建築設計学専攻	2	25		45	修士(建築設計学)	1.07	平成18年度改組			
先端フイブ科学専攻	2	30		52	修士(工学)	1.30	平成18年度改組			
バイオマテリアル学専攻	2	22		44	修士(工学)	1.15	平成22年度設置			
工学科学研究科博士後期課程						0.93				
生命物質科学専攻	3	15		51	博士(学術)又は(工学)	0.79	平成18年度改組			
設計工学専攻	3	9		29	博士(学術)又は(工学)	0.69	平成18年度改組			
造形科学専攻	3	8		24	博士(学術)又は(工学)	1.04	平成18年度改組			
先端フイブ科学専攻	3	8		28	博士(学術)又は(工学)	1.34	平成18年度改組			

附属施設の概要	<p>名称：附属図書館 目的：学習支援及び研究支援 所在地：京都府京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地 設置年月：昭和24年5月 規模等：建物4,893㎡</p>
	<p>名称：美術工芸資料館 目的：教材として収集してきた資料の所蔵・教育研究・展示 所在地：京都府京都市左京区松ヶ崎御所海道町 設置年月：昭和55年4月 規模等：建物2,296㎡</p>
	<p>名称：情報科学センター 目的：基盤情報技術に関する研究 所在地：京都府京都市左京区松ヶ崎御所海道町 設置年月：平成16年4月 規模等：建物802㎡</p>
	<p>名称：環境科学センター 目的：地球環境を考えた未来型技術研究と研究思想の発信 所在地：京都府京都市左京区松ヶ崎御所海道町 設置年月：平成4年4月 規模等：建物340㎡</p>
	<p>名称：ショウジョウバエ遺伝資源センター 目的：ショウジョウバエシステムの維持及びその研究 所在地：京都府京都市右京区嵯峨一本木町 設置年月：平成11年4月 規模等：建物1,537㎡</p>
	<p>名称：機器分析センター 目的：各種測定・分析機器の集中管理・共同利用の推進 所在地：京都府京都市左京区松ヶ崎御所海道町 設置年月：平成13年4月 規模等：センター運営費・事業費800千円/年</p>
	<p>名称：アイソトープセンター 目的：非密封放射線同位元素をトレーサーとして利用した教育研究支援 所在地：京都府京都市左京区松ヶ崎御所海道町 設置年月：昭和62年4月 規模等：建物170㎡</p>
	<p>名称：繊維科学センター 目的：繊維科学・工学分野の教育研究 所在地：京都府京都市左京区松ヶ崎御所海道町 設置年月：平成18年4月 規模等：センター運営費・事業費21,258千円/年</p>
	<p>名称：生物資源フィールド科学教育研究センター 目的：圃場を利用した教育研究 所在地：京都府京都市右京区嵯峨一本木町 設置年月：平成15年4月 規模等：土地61,111㎡、建物2,848㎡</p>
	<p>名称：ものづくり教育研究支援センター 目的：ものづくり教育プログラムの開発等 所在地：京都府京都市左京区松ヶ崎御所海道町 設置年月：平成18年4月 規模等：センター運営費・事業費1,888千円/年</p>
	<p>名称：昆虫バイオメディカル教育研究センター 目的：昆虫が有する機能の解明及びそれらのヒト医療への応用化に係る教育研究 所在地：京都府京都市左京区松ヶ崎御所海道町 設置年月：平成21年12月 規模等：センター運営費・事業費11,400千円/年</p>
	<p>名称：伝統みらい教育研究センター 目的：伝統産業及びそれに係る技術の教育研究 所在地：京都府京都市左京区松ヶ崎御所海道町 設置年月：平成22年4月 規模等：センター運営費・事業費2,643千円/年</p>
<p>名称：創造連携センター 目的：教育・研究から生み出される知的成果や技術成果の社会還元、地域貢献 所在地：京都府京都市左京区松ヶ崎御所海道町 設置年月：平成21年4月 規模等：建物2,153㎡</p>	

<p> 名 称：ベンチャーラボトリー 目 的：独創的研究開発の推進と独創的な人材の育成 所 在 地：京都府京都市左京区松ヶ崎御所海道町 設置年月：平成21年4月 規 模 等：建物1,510㎡ </p>
<p> 名 称：知的財産センター 目 的：知的財産の社会への還元と個性的な産業と文化の創出 所 在 地：京都府京都市左京区松ヶ崎御所海道町 設置年月：平成21年4月 規 模 等：センター運営費・事業費16,200千円/年 </p>
<p> 名 称：保健管理センター 目 的：学生の健康維持・増進 所 在 地：京都府京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地 設置年月：昭和50年4月 規 模 等：建物389㎡ </p>

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要															
(大学院工芸科学研究科バイオベースマテリアル学専攻 博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	ケモバイオロジー	1・2・3前		2		○			1	1					兼2
	バイオベースマテリアル化学	1・2・3後		2		○			1	2					
	材料機能制御学	1・2・3前		2		○			1	1					
	ナノファイバーテクノロジー	1・2・3前		2		○			1						
	材料機能構造相関	1・2・3後		2		○			1	1					
	応用タンパク質工学	1・2・3後		2		○			1	1					
	特別演習Ⅰ	1通	3				○		5	5		2			
	特別演習Ⅱ (研究指導)	2通	3				○		5	5		2			
小計(8科目)	—	6	12	0		—		5	5		2			兼2	
専攻共通科目(指定科目)	学術英語研究	1・2後		2			○								兼3
	ベンチャーラボ特別演習	1・2後		2			○								兼1 集中
小計(2科目)	—	0	4	0		—									兼4
合計(10科目)			—	6	16	0	—		5	5		2			兼6
学位又は称号		博士(工学)			学位又は学科の分野			工学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
3年以上在学し、16単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 (履修条件) 特別演習Ⅰ及び特別演習Ⅱで6単位、自専攻の授業科目から4単位以上の修得が必要である。							1学年の学期区分				2学期				
							1学期の授業期間				15週				
							1時限の授業時間				90分				

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院工芸科学研究科バイオベースマテリアル学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 科 目	ケモバイオロジー	従来のケミカルプロセスに替わる微生物や酵素などの生物機能を利用したバイオベースマテリアルの新規合成法に関する最新知見を習熟・理解する。具体的には、微生物によるモノマー・ポリマー高効率生産法と酵素生産法や、グリーンプロセスに基づくモノマー重合法など、ケモバイオロジーを利用したバイオベースマテリアルの合成法に関する最新知見について、受講者が自ら調べ、紹介し、討論することで理解を深める。	
	バイオベースマテリアル化学	有機化学、高分子化学、材料科学に基礎を置き、バイオマスを原材料とする新しい材料合成化学について講述し、今世紀のマテリアルパラダイムをどのように構築していくかについて検討しながら、実用可能な高分子素材を合成するための基礎と応用力を養うことを目的とする。特に、新規バイオベースマテリアルの分子設計・合成を原料にさかのぼって考え、さらに、その物性評価や機能評価など材料開発の手法を具体例に基づいて詳細に検討する。同時に、高機能・高性能材料だけでなく、生体材料のような新しい材料科学・工学の研究分野への展開についても考察していく。	
	材料機能制御学	生物由来のバイオベースマテリアル（BBM）の性質や特徴と、そこから生み出される機能の発現機構やBBMに機能性を付与して応用するための方法について理解することを目的とする。まず、BBMの性質や特徴をとらえるための測定・解析手法について、最近のトピックスもあわせて解説する。次に、BBMの物理的・化学的・生物学的機能についての研究や、その機能を利用した材料開発のための研究について講述する。また、それぞれのトピックスにおいて受講生との討論を行ない、機能材料の研究への主体的な取り組みの姿勢を涵養する。	
	ナノファイバーテクノロジー	ナノオーダーの直径を有する繊維状構造体（ナノファイバー）が発現する特異な機能、性能について理解させるとともに、従来の技術では不可能であったこのようなナノファイバーをどのような新技術により形成することが可能となったかについて講述する。また、ナノファイバーが環境に与える功罪についても述べる。なお、講義では上記内容に沿った内容の学術論文を国際誌より抽出し、内容について講述するとともに、学生とのディベート形式でナノファイバーに対する理解を深めさせる。	
	材料機能構造相関	ソフトマテリアルのナノ構造と発揮される物性・機能性との相関性について一層の理解を進め、研究・開発の現場で実効的に活用できる能力を身につけることを目的とする。そのため、博士前期課程配当科目であるナノ材料構造、ナノ材料物性で履修した知識を前提として、研究・開発能力の開発を行う。より具体的には、報文等の調査を行わせ、研究事例を学修し、材料物性・機能性を発現させる構造設計・制御法について理解を深めさせる（ケーススタディ）。さらにこれを土台にして、近未来のナノ構造物性制御法とそれを生産・加工プロセス設計へ還元する方策について、講師や受講生とのディスカッションを通じて自主的に考察させる（グループディスカッション）。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院工芸科学研究科バイオベースマテリアル学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 科 目	応用タンパク質工学	タンパク質は生物の機能を実現する実体である。生物由来材料の高度な利用を考えるときには、産生体である生物の機能を掌るタンパク質を改変して新規な物質を得ようとするのが不可欠である。本講義では、タンパク質分子そのもの改変（タンパク質分子工学）と、改変された分子あるいは他生物の分子を特定生物で発現しやコントロールすること（タンパク質システム工学）の2つの面から、応用性・実用性を具体的研究・開発事例を主眼に講述すると共に、受講者ととともにその成果・問題点などを議論し理解を深めていく。	
	特別演習Ⅰ	バイオベースマテリアルおよびその関連分野における研究項目の中で、各自の研究テーマについて教員の指導のもとで実験、演習及び研究調査を行い、得られた結果を発表し討議を行うことにより、専門的能力の基盤を築くことを目的とする。	
	特別演習Ⅱ	バイオベースマテリアルおよびその関連分野における研究項目の中で、各自の研究テーマについて教員の指導のもとで実験、演習及び研究調査を行い、得られた結果を発表し討議を行うことにより、専門的能力の基盤を築くことを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院工芸科学研究科バイオベースマテリアル学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻 科目	研究指導	<p>研究の各段階において、学生の自主性を重んじ教員と学生が十分に議論し、検討を行うことにより、専門分野における知識と技術の他、企画、発表、コミュニケーションなどの能力を獲得し、実社会において専門技術者、あるいは、研究者として自立できるように指導を行い、それぞれの研究テーマについて論文指導を行う。</p> <p>(1 木村 良晴) バイオマス由来の新しい素材の開拓を目的とし、バイオベースポリマーの分子設計から材料設計に関する研究指導を行なう。</p> <p>(2 浦川 宏) バイオマスやバイオベースマテリアルに高度な機能を付加する方法の開発を目的とし、材料構造と機能の相関に関する研究指導を行なう。</p> <p>(3 山根 秀樹) バイオベースマテリアルの高次構造をナノレベルで制御するファイバーテクノロジーおよびナノファブリケーションに関する指導を行う。</p> <p>(4 小原 仁実) 生物化学と有機化学の両分野における高度な知識を理解し、問題解決のためにそれらの知識を組織化し応用できる能力を育成するよう研究指導を行う。</p> <p>(5 櫻井 伸一) 材料微細構造の制御と実用材料への展開を目的とし、先端的ナノ構造解析に軸足を置いたバイオベースマテリアルの構造物性相関論等に関する研究指導を行なう。</p> <p>(6 安孫子 淳) バイオベース素材の合成や分子変換に関して、特に効率的・実用的な立体選択的合成法の開発研究について研究指導を行なう。</p> <p>(7 佐々木 園) バイオベースマテリアルの微細構造と発揮される機能との関係を明らかにすることを目的とし、主として光を利用したナノ構造解析、ナノ構造制御に関する専門性の高い研究指導を行なう。</p> <p>(8 安永 秀計) バイオベースマテリアルの高機能化と機能発現機構や機能化過程の解明を目的とし、化学変換・物理的処理法の開発と機能評価・解析に関する研究指導を行なう。</p> <p>(9 青木 隆史) 主にバイオメディカル分野への応用展開に重きをおき、新規バイオベースマテリアル素材に関する研究指導を行なう。</p> <p>(10 麻生 祐司) 循環資源閉環サイクル形成のためのバイオプロセスの開発を目的とし、微生物工学、生化学等に関する研究指導を行なう。</p> <p>(11 功刀 滋) タンパク質の構造変換による機能改変に関する研究指導を行なう。</p> <p>(12 半場(富田) 祐子) 分子操作によって創出された有用植物の育成や機能評価を行う事を目的とし、膜タンパク質の定量や環境耐性植物の創成等に関する研究指導を行なう。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院工芸科学研究科バイオベースマテリアル学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻 共通科目 (指定 科目)	学術英語研究	学術英語の諸相についての理解を深め、大学院博士後期課程レベルの学術研究に対応した英語の技能を高める。	
	ベンチャーラボ特別演習	自らの研究を継続し、より意義深いものにするためには、それを専門としない人々に理解し共感してもらう必要があります。それを考える1つの場として、本講義ではNPO法人設立を目標に、自らの研究と人々/社会との関係性を検討し、構築することを目指します。	